

(別記様式第3号)

## 普及活動検討会実施報告書

( 石巻 ) 農業改良普及センター  
実施月日：令和2年2月6日  
実施場所：石巻合同庁舎(石巻市)  
(単位：人)

### 1 検討内容

No	検討項目
	<ul style="list-style-type: none"><li>令和元年度完了プロジェクト課題の実績 課題No1～4</li><li>令和2年度普及計画(案)について</li><li>令和2年度新規プロジェクト課題(案)の計画 課題No1～5</li></ul>

### 2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	3	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	1

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

※下記「評価結果」欄の・印は普及活動検討会にて委員から受けた質問や意見の内容であり、◎印は、提出があった「普及活動検討会評価表」(別記様式第1号)の「評価(評価できる点や改善すべき点)」欄に記載された内容を転記。

#### [令和元年度完了プロジェクト課題の実績について]

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント, 評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
プロ課題の 進捗状況  課題No. 1	4.3	<ul style="list-style-type: none"><li>プロジェクト課題に取り組んで、明らかになった課題はあるのか?</li><li>ハンズオンで数字で経営が見えるようになり、課題の改善、自覚をすることのきっかけになった。</li><li>◎対象の選定, ニーズ, 目標, 共に適切で良いと思う。</li><li>◎支援方向, 手法, 関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。</li><li>◎目標は, 計画通り達成されている。今後の整理も良いと思う。</li><li>◎後継テーマの選定につながっており, 良いと思う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>経営方針を定めるには, ある程度の時間を要しますが, その重要性は理解されたと思います。</li><li>対象の4経営体それぞれが課題を明確に捉え, 次年度も継続して課題解決に取り組む予定です。</li></ul>

- ◎経営安定化のためには経営管理能力の向上が大切であり、ハンズオン支援事業の経営改善支援は大変有効であると思う。
- ◎水稲乾田直播による収益アップは直接収入に結びつくものであり、技術向上支援は大変ありがたい。これからもお願いしたい。
- ◎専門家による経営アドバイスをを行ったことは良いと思う。また、ワークショップ等を通じ、社内の課題を共有化したことも評価できる。
- ◎ただ、個別の経営体がそれぞれどういう状況にあるかがわからなかった。
- ◎社員だけではなく、論点の整理や議論の進め方が難しいという中、社内会議のきっかけ作りをし、社員会議の定例化、定着をさせ、情報の流れを良くしたことや、経営者層、若年層それぞれに研修を実施することなど良かったのではないかと思う。
- ◎システムへの理解と導入が進んだことも良かったと思う。
- ◎震災前からの法人と震災後に始まった法人とは意識の温度差が認められていたが、今年度はかなり埋まったように思う。
- ◎圃場管理システムは、各法人の理解がかなり必要だと思う。
- ◎組織内の情報共有と意思統一は非常の重要であり、震災後に十分な検討の時間も無く設立された法人には、きっかけづくりの仕掛けとして非常に良い取組であった。
- ◎石巻管内の被災法人については、県内でも震災後早く立ち上げたため、手探り状態の経営だったと思われる。これまで順調に経過している事もあり、活動内容・活動の成果について評価できる点と思われる。
- ◎水田大規模経営体は、これまで単年度決算においては良好に見えるが、今後來る機械更新等が経営リスクにならない様、中期的な経営計画の支援を引き続きお願いしたいと思う。
- ◎震災後設立された法人は地域農業の担い手として、持続可能な組織であることが求められている。経営管理、人材育成等の指導は、今後の法人の発展のためにとっても重要な支援で大変評価できる。
- ◎経営者セミナーによる人材育成や労務管理による講演を

		実施したことにより、各組織の意識改革が、図られているものと推察できる。	
課題No. 2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員のモチベーションをあげていくために、具体的にはどのようなアドバイスを行ったか。</li> <li>・時給や給与による待遇面も大きいのではないか。</li> </ul> <p>◎環境制御システムを十分理解し、活用していくために、生産者がよく観察して適切な管理がなされたことは評価できる。</p> <p>◎また、生産物の信用アップのためグローバルGAPを取得したことなど、会社のステップアップへの意欲が感じられた。</p> <p>◎対象の選定、ニーズ、目標、共に適切で良いと思う。</p> <p>◎支援方向、手法、関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。</p> <p>◎目標は、1年前倒しで達成されている。今後の整理も良いと思う。</p> <p>◎G A P 取得の費用対効果を意識しながら指導して欲しいと思った。</p> <p>◎複合環境制御、IPMを通じて生育、環境の把握をし、収量増加対策を分かりやすくし、環境制御への関心を高め、より高い収量確保するよう意欲向上するようにしたことなど良かったと思う。</p> <p>◎病害についてパート従業員とも情報の共有が出来るようになったのは素晴らしいと思う。</p> <p>◎G A P を取得することで、経営改善や取引先との信頼力がよくなったことは評価できると思う。</p> <p>◎生産技術の高度化の支援策において病害虫を自ら考えて観察して作業できるようになったことは今後につながるのだと思う。</p> <p>◎生産技術の高度化は収入増につながる大事な工程なので、今後も継続支援をお願いしたい。</p> <p>◎社員と共に、毎日パート従業員も作業しているので、まめな指導をお願いしたい。</p> <p>◎環境制御による増収が見られたことから、今後は、生産条件の異なる施設をもつ個人まで波及され、地域全体の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成の面で適材適所や、その人の意向に沿って目標を持ってやってもらうということを支援しました。また作業の数値化による業務把握を支援しました。</li> <li>・やる気の度合いで差を付けている法人もあり、待遇面を考慮するためにも作業の数値化は必要と思われました。</li> </ul>

		<p>生産拡大につながるよう、取り組みを進めていただきたい。</p> <p>◎GAP取得への取組は、課題対象者に取組効果と課題を実感いただいたが、取得に向けた課題は取得者共通のものと思われる。</p> <p>◎認証取得と取組を切り離して考え、GAPが広く知られ、差別化が可能となった段階で、効果と課題を検証したのちの認証取得が望ましいのでは。</p> <p>◎GAPについては、活動の成果とポイントにあるように流通先からの要請が大きいものと思われる。現状、更新コストの面から取得に踏み切れない状況にあるものと思う。</p> <p>◎法人によっては雇用の面から、作業内でのルール作り等を切り口に必要と思われるので、今後も継続的な対応をお願いしたいと思う。</p> <p>◎経営体がステップアップするために、先進的技術をフルに活用できるよう支援されている。</p> <p>◎GAP取組の必要性について、一定程度の理解が得られたことは認識できたが、審査対応可能な審査会社が見つからないという状況であったことは取得意欲に水を差すこととなっていることが気掛かりであった。</p>	
課題No. 3	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチゴ担当者は他の地区の「にこにこベリー」担当者との交流がない。取組事項にある視察は良い機会になる。従業員やパートの方にも栽培などで、わからないことがあるなら、自分で見学に行くことをアドバイスしている。</li> <li>・「もういっこ」と比べてとれ方が違って心配だった。最近では中休みが終わってきて、また収穫ができるようになってきてパートの方も安心している。花がいっぱいついて病害も落ち着いてきた。</li> <li>・にこにこベリーは農協の直売でも好評だった。</li> </ul> <p>◎今までのとは違う新しいいちごなので、継続した技術指導と支援をお願いしたい。</p> <p>◎購入者から大好評なので、期待に応えたい。</p> <p>◎対象の選定，ニーズ，目標，共に適切で良いと思う。</p> <p>◎支援方向，手法，関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。</p> <p>◎目標は，計画通り達成されている。今後の整理も良いと</p>	

		<p>思う。</p> <p>◎ I P M, 環境制御技術等は, 地域支援機関の指導・普及が特に必要なものと思う。</p> <p>◎ 「にこにこベリー」の知名度アップのため, 更なる工夫が必要。</p> <p>◎ 消費者からの高評価を受けて, 販路の開拓が必要。</p> <p>◎ 品種特性や栽培技術の確立も急がれると良いとも思う。</p> <p>◎ 「にこにこベリー」という名前も覚えやすく, 見た目も味も良い品種ができ, 試食会では大好評とのこと, 素晴らしいと思う。品質の良いものが安定して採れるよう引き続き I P M 技術の導入や農薬の適正使用支援をお願いする。</p> <p>◎ 生産者交流も活発になるよとお互いの刺激もあり良いと思う。</p> <p>◎ 新たなIPM技術によりハダニやうどんこ病が軽減されることはとても良いことだと思う。</p> <p>◎ いちごの環境制御勉強会を6回実施しており作業管理に反映できたことはとてもありがたいことだと思う。</p> <p>◎ いちごの新品種 (にこにこベリー) が評判も良いのでどこでも買えると良い。</p> <p>◎ にこにこベリーの認知度は少しずつ上がっていると思われるので, 安定した品質で供給していくためにも, 生産技術の確立と定着を進めていただきたい。</p> <p>◎ いちごについては, 新たな技術導入も図られ, 今後も個別経営体への波及効果が期待される場所。</p> <p>◎ いちご部会が解散後, 生産者への技術指導を実施し, 生産拡大に向け支援している。いちご農家経営安定のため, にこにこベリーの更なる普及を期待する。</p> <p>◎ 生産者同士による栽培情報交換は, 定期的を実施することが必要であり, 今後も継続のうえ, 石巻地域のいちご生産地の更なる確立に取り組んでいただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城県の取組として, 3月には石巻管内の5店舗も含め, 飲食店フェア等も開催しPR活動を展開する予定です。</li> <li>・ 栽培技術の確立・普及と合わせ, 関係機関と連携し, PR活動にも積極的に取り組んでいきます。</li> </ul>
課題No. 4	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告内容にあった「苗箱まかせ」のコスト削減効果は資材費だけなのか, 労働費も合わせてなのか。</li> <li>・ 復旧農地での試験とのことだが, 他の地区の復旧農地でも応用できるのか。東松島市鳴瀬地区でも復旧農地があるのだが。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブロードキャストでの作業や動噴を使用した作業など標準作業料金表を参考に労働費も合わせて算出しました。</li> <li>・ 緩効性肥料を播種と同時に苗箱に入れ, 本田で水稻の根元に肥料を施用する技術で, 一般農地でも応用できます。</li> </ul>

- ・津波被害の条件の悪い土地の収益力アップ支援，大変助かっている。
  - ・毎年収量が増えているということで，大変評価できる。育苗箱施肥法，作土層の改善，地力増進など総合的に収量を増やす技術支援は大変ありがたい支援であると思う。
  - ◎10年間という長期に渡っての経営計画は大変良いことだと思う。収量も上がっているので，素晴らしい成果だと思う。
  - ◎地力がなくなった圃場にも応用できると思う。
  - ◎対象の選定，ニーズ，目標，共に適切で良いと思う。
  - ◎支援方向，手法，関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。
  - ◎目標は，概ね達成されている。今後の整理も良いと思う。
  - ◎目標設定が少し意欲的過ぎたかもしれない。今後，計画力を高めてほしい。
  - ◎震災後，経営面積の増大からコスト削減は急務です。育苗箱まかせはすでに一部で導入されていますが，疎植や密苗でのコスト削減は可能か？
- 
- ◎地力の増進は大変重要です。ただ，5年とか10年で土づくりが出来ると思っていますので，長いスパンで継続すべきと思われる。
  - ◎より海に近い農地の栽培が始まり，色々な課題が浮き彫りに，とのことですが，肥料の効率的な利用(育苗箱まかせ)はとても良いと思う。
  - ◎水稻収量向上支援や圃場管理システム活用支援などこれからも大切な事だと思う。
  - ◎事故やケガのないよう安全確認の徹底も常に必要だと思う。
  - ◎育苗箱まかせの使用は当地の条件を勘案すれば非常に有用な技術だと思われる。この取り組みの他地区への普及も行うべき。

- ・復旧水田は地力が低く，今は水稻の生育量が少ないため，穂数が少なく，収量が確保できない課題があります。このため，慣行栽培のマニュアルに沿った植付株数や本数の確保が必要と考えます。まずは，堆肥等施用による土づくりに取り組み，今後，地力向上の効果が現れてきた段階で，この地域での疎植や密苗の栽培技術の検証が必要と考えます。
- ・三陸沿岸地帯においては，内陸部の気象条件に比べ，水稻作付期間中の気温が低いいため，この地域に合った省力的な栽培技術の検証が必要と考えています。

	<p>◎復興事業によって取得した機械等の更新が始まるので長期の収支計画は必須。準備金等も組み合わせた計画的な取得が望まれることから、その自覚をもってもらえたのは非常に良い。</p> <p>◎震災後、稲作については（株）宮城リスタ大川ならず、経営面積が大きくなっている法人ほど、震災前の個人経営の単収より落ちているように見受けられる。乾田直播等新しい技術が見受けられるので、資料にもあったが、社員研修会等により法人としての技術の底上げが必要と思われる。</p> <p>◎大川地区は農地復旧したものの、耕作土が薄いなど様々な問題を抱えている。苗箱まかせ等の施肥法の検討は単収の増につながっている。</p> <p>◎試行錯誤しながら、安定収入に向けた取り組み状況については、理解できるものの、定量的な数値目標に達していない。</p> <p>◎課題となる事項については、整理できつつあることから、今後の安定的な経営となるよう期待したい。</p>	
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのプロジェクト課題もプラスの方向に動いたと思うので、良かったと思う。</li> <li>◎指導員の皆様は、地域農業が抱える広範囲で様々な課題に対し、限られた人的資源でよく頑張っていると感じる。今後も取り組む課題の優先順位を十分検討し、定期的に再評価、見直しを行って組織のパフォーマンスを最大に保つよう、工夫を行ってほしい。</li> <li>◎支援組織は、農家に「気付きを与え、変化を促す」のが仕事だと思う。支援で農家に起きた「変化量」を自らの成果指標として支援を続けて頂きたいと思う。</li> <li>◎普及センターの皆様の支援で技術向上、経営改善、人材育成ができてありがたい。これからもお願いしたい。</li> <li>◎すべての取り組みにおいて、一定の成果が見られたと思う。</li> <li>◎そうした取り組みが広く地域全体波及するよう、関係機関と一体となって進めていただければと思う。</li> <li>◎事前に配布された資料が、白黒、縮小のため、大変読みにくい。読めない箇所もあることから、改善を要望する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の普及活動検討会における配付資料の内容を精査すると共に、カラー印刷にするなど、委員の方に分かりや</li> </ul>

すく確認しやすい資料作りに努めていきたいと思ひます。

[令和2年度普及計画及びプロジェクト課題について]

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和2年度普及計画について	4.4	<p>◎活動テーマ設定の前提となる地域の支援ニーズについて定量的に把握する様にして欲しい。（行われているとは思ひますが。）目標、活動計画は概ね問題ないと思ひする。</p> <p>◎支援方向、手法、関係機関や農業者連携等、活動展開の方向性は良いと思ひする。</p> <p>◎県全体の方向性を踏まえ、新たな活動を加えつつ、過年度活動成果・結果を反映した良い計画になっていると思ひする。月次の活動予定も計画され、素晴らしいと感じる。</p> <p>◎震災後、担い手の中心となる法人が多く設立されたが、多様な担い手という観点から、家族農業も大切だと思ひする。</p> <p>◎農村では、まだまだ女性の活躍できる環境は整っていない。家事、育児は女性の仕事という考えが強い。経営のパートナーとしてそれで良いのだろうか？</p> <p>◎石巻地域において震災で農業環境が変わり、まだまだ復興していない。土地利用型法人、大規模園芸法人、個人農家など課題がまだまだある。</p> <p>◎重点化活動の魅力ある石巻地域の農業、農村の再興や担い手の確保、育成の支援は特に良いことだと思ひする。石巻地域の農業が元気になれるような支援をお願いする。</p> <p>◎地域の特性に合わせた支援が行われていると思ひする。</p> <p>◎鳥獣被害は全国的に問題視されているので、今後も国からの対策費用（補助）も考えてもらいたい。</p> <p>◎営農再開した地区を中心に経営安定に向けた取り組みが</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の普及指導計画策定にあたっては、地域の支援ニーズを把握するため、地域が抱える課題について整理を行うとともに、関係機関（市、JA等）との意見交換を実施し課題選定をしております。また、選定した課題について定量的な目標設定を行うよう努めていきたいと思ひます。</li> <li>・地域農業の担い手としては、法人のみならず、生産組織や認定農業者など、様々な担い手がいることから、引き続き普及センターの活動として支援してまいります。</li> <li>・プロジェクト課題以外の重点活動や一般活動において、「女性農業業者の育成」等にも引き続き取り組んでまいります。</li> </ul>



		<p>挙げられたと思う。</p> <p>◎高齢化や就業人口の減少など、担い手確保育成が重要な課題となっているので、今回の各プロジェクトが地域のモデルとなって地域農業全体の底上げができるよう期待する。</p>	
<p>プロ課題の進捗状況</p> <p>課題No. 1</p>	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機物の投入とのことで年数かかると思うが、土壌改良材のゼオライト等は入れないのか。</li> <li>ブロックローテーションで豆後に作付すれば窒素発現し、肥料が節約できると思うが。</li> <li>地力の向上とのことだが、収量がどのくらいまで上がればよいのか。令和元年の完了課題で460kg程度まできているのだが。</li> <li>普及センターの限りあるマンパワーを使うにあたって、90%達成しているところを100%にするために人員を割くのは非効率だと思ったので、確認した。</li> <li>リスタ大川では場条件が悪い中や人がいない中で桁違いの規模で経営を行う。鹿の被害等もある。安全面などいちいち確認することが大事だと思う。</li> <li>対象の3法人は復興交付金で経営再開の対応した。来年、再来年で機械の更新時期になる。経営、土壌等の課題もある。よろしく願います。</li> <li>大川地区の長面は耕作土も薄いため、単収増になるよう支援をお願いします。</li> </ul> <p>◎条件不利地が営農再開されるようだが、引き続き地力の増進の方法を模索してほしい。</p> <p>◎土改材など、数種の試験区があっても良いのではないかと。</p> <p>◎対象の選定・ニーズ・目標等、概ね適切と思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水田にゼオライトを入れる事で保肥力向上などが期待されますが、160haあるところに入れるとなると規模が大きく経営的、コスト的に考えると地域内の有機物投入が現実的だと考えます。</li> <li>大豆については鹿に食べられたり、排水不良等の問題があり、一部の作付にとどまっている状況です。</li> <li>被災前の収量レベル480kg/10aを目標にしています。</li> <li>長面地区の上流から復旧が進んでいますが、今は下流地区の農地が復旧しています。気象的及び土壌環境的な要因により、上流の方が収量が高く、下流の方が収量が低い状況です。ほ場の条件により、収量が高いところ低いところありますが、平均して480kg/10aになれば経営的にも安定すると思われれます。登熟の関係等もありますが、まずは土作りによる基盤作りが重要だと考えております。</li> <li>復旧農地の作付開始前に土壌分析を行っており、この結果を踏まえた土壌改良資材の施用を助言しています。併せて、作付後の生育状況・収量を確認し、再度、土壌分析を行い必要な土壌改良資材の施用を行う予定にしています。</li> <li>これまでの復旧農地における課題として、地力不足と土壌物理性の悪化が多くの水田で見られるため、有機物の投入を課題設定にしています。</li> </ul>

		<p>◎支援方向・手法・関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。</p> <p>◎設定された成果指標・活動指標は、概ね適切と思う。収量UPを目的とする地力向上について丁寧な説明を心掛けて欲しい。(1年目：445kg/10a, 2年目：460kg/10a)</p> <p>◎復興農地での土づくりは重要なことだと思うので、水稻の収量向上、安定が図られるよう指導を続け、成果が出るよう期待する。</p> <p>◎農地復旧後、1経営体の耕作する面積も多くなっているので、乾田直播栽培の支援をお願いする。</p> <p>◎被災地域の農地において有機物施用による土作りは大変有効だと思う。有機物により、良い微生物が増えれば病気も減るし、作物も元気になる。</p> <p>◎畜産農家との連携もできるし地域内の有機物活用も出来て収量が上がればとても良い向上支援であると思う。</p> <p>◎被災農地は長期的な土づくりが大事だと思うので、是非継続していただきたい。</p> <p>◎土づくりはやらなければならないこと。手法を多く示し、どれが実践可能かを経営体に判断いただくことになる。地域の限りある資源、土壌改良材など、コストも意識したなかで、効率的な土づくりができるよう期待する。</p> <p>◎水稻直播はコスト低減できる技術だが、収量が確保できなければ意味がない。令和元年度においても移植より低い実績となっていることから、安定して収量確保が図られるよう取り組みに期待する。</p> <p>◎震災後、経営面積が大きくなっている法人ほど、震災前の個人経営の単収より落ちているように見受けらる。重点的な生産性向上に向けた取り組みに期待する。</p> <p>◎土づくりは、生産性に直結する大変、重要なことのひとつと認識しており、安定収量の基本であり、しっかりとした検証が、次年につなげていけるよう取り組んでいただきたい。</p>	
課題No. 2	4.0	<p>◎対象の選定・ニーズ・目標等、概ね適切と思う。</p> <p>◎支援方向・手法・関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。</p> <p>◎設定された成果指標・活動指標は、概ね適切と思う。</p> <p>◎経営体の稼ぐ力が高まれば、モチベーションは高まり、</p>	

後継者問題は解決する。組織のルール作りについては、経営体の対応力を慎重に見極めながら指導を行ってほしい。

- ◎法人の育成は雇用の場を提供という意味から重要だと思う。
- ◎人材育成モチベーションの向上も時間を要すると思うが、大切なことだと思う。
- ◎やる気のある担い手の確保や育成に向けた支援は必要だと思うので、頑張っていたきたい。
- ◎農業法人経営安定化ハンズオン支援モデル事業は専門家による経営分析、指導、組織の問題提起が出来てとても良いと思う。
- ◎農業法人の経営ステップアップには欠かせない事業だと思う。
- ◎継続的な人材不足とあるが、社員を増やすことではなく、一人一人の質の向上も勧めて欲しい。
- ◎組織が持続的に発展していくためには、組織体制の整備や人材育成は必要不可欠。震災後設立法人にはその部分を検討する時間が実際のところ無かったと思われる。現在は少しずつ、個々の法人にあわせた断片的な取り組みが進められているが、包括的な取り組みとなるよう期待する。
- ◎作業の標準化は有用な取り組みだが、過剰な取り組みは負担になる可能性があるので、段階を踏んで進めていただければと思う。
- ◎被災後設立法人については、現状水田部門については黒字、園芸部門は厳しい経営の所が多い様だ。
- ◎園芸部門の雇用者の対応については、各経営者とも苦慮しているようなので、安定的な生産に向けられるよう期待する。
- ◎営農再開のための法人から、地域の企業となるよう期待してる。
- ◎震災後、本市でも多くの法人が設立され、組織体制の強化が必ずしも、万全と言えない法人が少なくないものと思われる。
- ◎そうした中で、課題対象が1組織のみではなく、多少幅広い支援体制が行えないものか。

- ・本プロジェクト課題では、一つのモデル事例として取り上げ、集合研修や関係機関と連携した活動を通じ、他の組織へ波及させるように取り組んでいきます。

<p>課題No. 3</p>	<p>4. 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップセールスも大事だが、全県上げて生産消費拡大に取り組むことも重要。</li> <li>・「にこにこベリー」の販売促進を思い切って仕掛けていただきたい。購買意欲が下がってきている中で、どうやって売ったらいいのかなというのがある。販売の仕方も大事にして欲しい。</li> <li>・課題背景のところに、「にこにこベリー」の収量が5 t /10 a採れるとあるのに、課題の目標が4. 5/10aとあるが、どうなのかな？</li> <li>・プロジェクト課題の対象者が機械の更正をおろそかにしている場合があることは、その対象者にとっては意外と盲点である。基本的な管理だけれど、機器が本当に正確かどうかということは案外やられていないということなので、普及センター等の公共的な立場の人が気づきを与えることはとても良いことだと思われる。</li> <li>・にこにこベリーは開発まで10年以上かかったのだから、何年間で打ち切りにならないよう、生産者も努力をするので、全国に誇れるようなブランドにしてほしい。</li> </ul> <p>◎生産者による「いちごサミット」など情報交換も必要だと思う。</p> <p>◎観光の振興も視野に入れてほしい。</p> <p>◎対象の選定・ニーズは適切と思う。収量目標については、再考を願いたい。</p> <p>◎支援方向・手法・関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。</p> <p>◎成果指標・活動指標には、課題背景との整合性を図って欲しい。</p> <p>◎今後、高度管理を進める場合、諸条件のファインチューニングが必須となる。その前提となる計測機器類の校正は重要で支援機関の役割が大きいと思う。</p> <p>◎栽培管理が従来と異なる点もあるので、生産者の頭の切り替えが大事。</p> <p>◎ヤシガラ培地のpHの低下が見られるので、引き続き調査をお願いしたい。</p> <p>◎人気の高い品種として定着すると思うので、品種特性に合わせた栽培管理を各法人が習得するよう指導できる事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30産の仙台いちごの実績が5 t /10aということを受け、大分控えめに目標を設定したところですが、目標設定については、再度検討を重ねていきます。</li> </ul>
----------------	-------------	---	---

		<p>を期待したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎とても評判が良いので生産を増やしてどこでも買えるようになると良い。</li> <li>◎にこにこベリーに合わせた栽培技術の指導も願います。</li> <li>◎産地の維持発展・知名度向上に向け、栽培技術の定着による安定生産が望まれる。課題も明確化されていることから、計画されている現地検討会や栽培講習会を通じて、生産者の指導に加え、生産者間の交流も積極的に進めていただければと思う。</li> <li>◎「にこにこベリー」については、デビューイベント等販促活動により、県内では名前は浸透してきているものと思われる。</li> <li>◎石巻地域は流通上県内消費が多い地区なので、色回りを重点に食味の評価を上げる事が必要。</li> <li>◎最終的には生産面での特徴が品種選定を左右するので、これまで同様の指導をお願いします。</li> <li>◎作付面積が更に拡大し、いちご農家の経営安定が図られるよう期待する。</li> <li>◎新品種いちごの普及が、石巻圏域におけるブランド力アップに、つながるものと捉え、更なる普及啓発、技術向上となる支援となることに期待したい。</li> </ul>	
課題No. 4	4.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスパラガスは10aあたり、何kgくらい採れるのか。</li> <li>・地域で、どれくらい生産量、販売額がとれれば、アスパラガスの産地となり得るのか。北海道、長野は産地として認識されているが、市場力もあるだろう。</li> <li>・アスパラガスの産地できたら良いと思う。メキシコ産は値段の割に物があまり良くない。地域で誇れるものがあると良い。</li> <li>・アスパラに期待している。震災の時に泥からアスパラが出てきているのを見て丈夫な作物、生命力を感じた。地元で作れるようになれば直売所の所得も上がる。高齢化も進んでいるので、腰が痛くないような作目だと良い。</li> <li>・アスパラはガスは1,400円/kg程でも売れる作物と感じて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治大学（神奈川県）では「採りつきり栽培」で1t/10a程の実績ですが、石巻地域では500～700kg程度とれば良いです。取引価格等から試算すると経営的に収益が出るには300kg/10a以上、直売所等で販売する場合は250kg/10a以上が目安になります。</li> <li>・産地としての目標については、市場分析等をしながら、JAと共に、これから分析・検討したいと思います。</li> </ul>

いる。「採りつきり栽培」がこれまでとは違う栽培ということを皆様に説明しながら、一気に産地化を目指して進めていきたい。

- ・石巻ではほ場整備が何地区か残っているが、麦・大豆以外で高収益作物が必要になる。担い手不足の中で高収益作物は難しいが、人手かからずに栽培、収穫出来るアスパラガスが高収益につながれば良いと思う。
- ・ほ場整備地区の担い手をどうするかは課題である。奥松島の宮戸での担い手なんとか決まったため、今年スタートとなる。今後経営が始まり、採算合わないということで、管理するという人がいなくなるということ懸念される。可能ならアスパラが良いのではと思った。道路幅が狭く大型機械とかも入れないことがあったりするので、作物転換をして、土壌が合えばアスパラということもある。課題解決に向けて乗れる部分では乗りたい。

- ◎対象の選定・ニーズ・目標等は適切と思う。
- ◎支援方向・手法・関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。
- ◎設定された成果指標・活動指標は、概ね適切と思う。
- ◎指導員の経験を生かしたテーマ選定で良い。プロジェクト課題No.2の推進に役立つと考えられるので連携した取り組みをお願いしたい。
- ◎思ったようにいかない事も出てくるかと思うが、地域活性化に向けた高収益作物としてアスパラガスがうまく定着し、消費者にも喜ばれる産地となっていく事を期待する。
- ◎生産者の健康志向が高まっているので、直売所でのニーズも大きくなってきた。是非面積拡大につながって欲しい。
- ◎アスパラガスについては、販売環境や生産面も新たな技術導入もあり、期待される。
- ◎米、麦、大豆以外の高収益作物として普及するよう期待する。
- ◎「儲かる農業」は、どの生産者も、魅力と感じる場所であり、需要も期待できることから、高収益作物のひとつとして、圏域に広がることとなることで、「豊かな農業経営」となるようお願いしたい。

		<p>◎新規作物として期待される。栽培の難しさなどはないが、付加価値などをつけた販売などを考えてほしいところ。</p> <p>◎北海道、長野県で多く作られているアスパラガスだが、毎年栽培面積が病気のため減ってる。新技術のアスパラガス採りきり栽培による作り方で高収量、高収益が見込めるようで、石巻地域で普及できれば大変ありがたい。</p> <p>◎ぜひ定着するように栽培者と連携して頑張ってもらいたい。</p> <p>◎少量多品目の当地にあって、圃場整備事業に伴う高収益作物の導入にも対応できる当該品目への期待は大きい。</p> <p>◎毎月の栽培講習会や情報発信など、手厚い取り組みも計画されていることから、関係機関を巻き込んで、地域全体へ波及できるよう、意欲的な取り組みに期待する。</p>	
<p>課題No. 5</p>	<p>4. 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定量的目標の新規就農者の就農計画の売り上げに対して実績50%以上に対してとあるが就農計画が絵にかいた餅ということなのか。</li> <li>・ 新規就農者の育成では、新規就農者の経験が浅いため、自分でなんでもできるようにすることが大事。新規就農者の課題の内容を見ると経営管理や帳簿の付け方等一人前の農業者になるように指導してフォローアップできるようにしている。</li> <li>・ 新しくできる法人もこれからあり大変だろうから同様の支援して欲しい。</li> <li>・ 新規就農といってもその地域の一員となるので、すでに地域で活躍している方たちとの交流にも率先していくよう指導して欲しい。</li> </ul> <p>◎対象の選定・ニーズは適切と思う。</p> <p>◎支援方向・手法・関係機関や農業者連携等も十分にできていると思う。</p> <p>◎現実問題として就農計画に対する実績の乖離が大きいのが現実であれば、実現性の高い就農計画の立案を支援して欲しい。</p> <p>◎新規就農者の支援は大変ありがたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画と実態が外れているということではなく、次世代人材投資事業で、就農計画の売り上げに対して実績50%以上あれば良好な経営体と判断されるので、そこを目標にしました。実際は所得が得られるかということが問題になりますが、畜産の新規就農経営体では3年目の収支がマイナスになるので、まずは売上をしっかりと出していくという事で、目標に設定しました。</li> </ul>

	<p>◎農業は幅広い知識が必要なので、自ら経営の出来るように広範囲の指導をお願いします。</p> <p>◎栽培技術，管理作業，帳簿，自立できるよう特に支援をお願いします。</p> <p>◎家業を継ぐ場合と農業以外から就農する場合がある。今回は後者のようですが，地域の担い手（農村社会全般）として育てていただきたい。</p> <p>◎売上計画とはどのようなものか？</p> <p>◎地域農業を支える人材はとても大切だと思うので，経営意欲の高い担い手が育つ事を期待したい。</p> <p>◎新規就農者の支援は大変ありがたい。</p> <p>◎農業は幅広い知識が必要なので，自ら経営の出来るように広範囲の指導をお願いします。</p> <p>◎栽培技術，管理作業，帳簿，自立できるよう特に支援をお願いします。</p> <p>◎担い手の高齢化は顕著に進んでおり，新たな担い手の確保は喫緊の課題です。新規就農者の方々がかかえる不安や課題によりそって，自立に向けて必要な技術等を習得させていくような取り組みを期待する。</p> <p>◎新規就農者の自立支援については，各関係機関の連携・協力なくしては経営の安定化は難しいものと思われる。</p> <p>◎基本は生産する事だと思うので，優先順位を整理しながら，定着が図られる事を期待する。</p> <p>◎新規就農者支援については，関係機関が一丸となってサポートする体制が必要だと思う。</p> <p>◎今後，就農希望者のモデル的な経営となれるよう支援することで，今後の新規就農者の拡大にもつながるものであり，経営安定を図れるよう指導願う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業次世代投資人材事業の交付申請や青年等就農資金の借り入れのために，5年間の営農計画を作成します。その営農計画では単年毎の売上目標が設定され，就農後の経営指標となります。本課題ではその売上金額を目標に設定しました。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家をやっていて，“慣れ”なのか，経営のベースになる土が疎かになってきているのかなと感じる。AI，ICT等発達してきているが，土の中で何が起きているのかというところまで把握することは難しい，奥深いのが農業だと思う。</li> </ul>	



- ・被災された農業者の方は法人を立ち上げて再開したというのがほとんどだったと思う。震災から大分落ち着いてきたけれど、経営の不安定性が露出してきている。普及センター等の支援があり、地に足付く経営が行われてきているのかなと感じる。プロジェクト課題等で支援をした組織だけではなく、広がりがあるのが欲しい。
- ・苗箱まかせがどういうものかということなど、プロジェクト課題で得られた成果を情報発信し、広がってもらいと効果が大きくなると感じた。
- ・来年度被災地中心の課題となると思うが、石巻圏域の農業がうまく回るように考えていただいた取組。今後とも協力させていただきたい。
- ・個別農家や中核的な農家等に環境制御の技術の導入を今後も進めていきたいので道筋をつけてほしい。
- ・鹿又地区7～8haの畑の使い道としてどう活用していくか、検討していく必要がある。鹿又、広瀨地区ほ場整備は工事が終了したが地元の合意形成がなかなか進まない状況。今後も指導をお願いする。
- ・重点活動で鳥獣害対策が新たに追加されたが、東松島でも熊やイノシシの出没が昨年2～3件あった。まだ大きい被害は出ていないが、今後被害拡大が懸念される。3年前は猿にモモやられたが、去年は安定生産できた。今後も鳥獣害対策をお願いしたい。
- ・震災後というのは、経営規模が震災前と違って大きくなってきている。小規模の頃とは違って環境制御やIPM技術等が大事になってきている。技術が定着しつつあるのは普及センターの活動のおかげ。
- ◎時間が不足していて、駆け足の会議だった。もう少しゆっくりとして説明が欲しい。
- ◎石巻地方は農畜産物、海産物が豊富。しかし、現状はPR不足と連携不足で十分に発信が出来ていないと思う。
- ◎地域農業がより良いものになるよう、どのプロジェクトも引き続き温かい支援をお願いする。
- ◎転作のみの法人及び営農組織について、水稻及び高収益作物を取り入れた経営の指導をお願いする。
- ◎検討会の資料は、まとめ方に工夫が見られ、年々、わかりやすくなっていると思う。
- ◎指導員の皆様は、地域農業が抱える広範囲で様々な課題

- ・今後の検討会では、委員の方に十分な審議をいただけるように、内容や時間配分を十分検討し、より効果的な検討会になるように努めます。

に対し、限られた人的資源でよく頑張っておられると感じる。今後も取組む課題の優先順位を十分検討し、定期的に再評価、見直しを行って組織のパフォーマンスを最大に保つよう、工夫を行ってほしい。

◎支援組織は、農家に「気付きを与え、変化を促す」のが仕事だと思う。支援で農家に起きた「変化量」を自らの成果指標として支援を続けてほしいと思う。

◎管内農家のモチベーションを高め、良い方向に動機づける目的で、定期的に先進農家の事例発表会や、品質や収量の競技大会等をセンターが主催してはどうかと感じた。

◎とても良い計画設定だと思う。アスパラガスと新規就農者の支援の成果が楽しみだ。